

エンパワメント型アーツセラピー活動の評価方法

エンパワメント型アートセラピー（EAT）は、病理学的アートセラピー（PAT）のように、一定の期間、一定の範囲、一定の評価基準（患者の病態の改善度）の枠にはない。相手の状態も方向性も千差万別で、何をもって「良好な変化」であるか一律に決められず、また選択肢も複数ある。現在の関わりが何年も経てから変化をもたらすことも考えられる。したがって、ここでの評価とは EAT のアートセラピストを「裁く」ものではない。つまり、第三者が審査し点数を付けるものではなく、アートセラピスト自身が「第三者的な視点をもって自己評価するもの」となる。すべての項目について 100% が理想というわけではなく、活動目的によってパーセンテージが低くてもよい項目もあるだろう。各項目の内容が各活動にとってどれだけ必要かも自己判断となる。

重要なのは、「私はこのような立ち位置で、こうした目的をもってアートセラピーを提供している」ということを自己認識すること、そしてそれを明示できることである。

将来的には第三者による認証が求められるが、そのための組織やシステムづくりにはかなりの時間を要する。EAT が多分野にわたり、多様なあり方をしていることを考えると、EAT の評価基準を一律には定めることは困難であり、統一した認証システムを構築することは容易ではない。そこでまずは、7 カテゴリー-23 要件の構成要件リストを用いた自己評価方法を提案し、この方法の可能性を追求しよう。

具体的な自己評価の手順

- (1) 別紙を用意し、各項目についてご自身の考えや取り組み方、実践内容、また項目内容の重要度を書き出す。
- (2) 各活動にとっての各要件の重要度を考えながら、要件の達成度を 5 段階で評価する。
- (3) 7 項目それぞれで平均値を出し、レーダーチャートに記入する。

※項目 6 の要件⑩について、該当しない場合は省いて計算

自己評価のレーダーチャート

